



第9回総会開く～平和資料館設立に本腰、番兵塔などの文化財指定をめざす～



【総会で挨拶をする竹内共同代表】

「鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会」の第9回定期総会は4月15日(土)、ジェフリーすずかで22人が出席して開かれました。活動計画の中で、①保管期限が切れた格納庫の部材の搬出・活用のためにも今年度中に平和資料館設立の目途をつける、②数々の市内の戦争遺跡のうち可能なものから順次、市の文化財に指定していくよう市に働きかけていく、などの方針が承認されました。

共同代表の竹内は冒頭のあいさつで「平和資料館は市の空き施設を利用した『公設民営』を考

えており、実現のためには鈴鹿市との緊密な連携が欠かせない」として、「保存・活用を求めたNTT跡地の旧海軍格納庫が取り壊されたときは、それを進めた市とぎくしゃくした関係になったが、取り壊されたあとは譲り受けた格納庫部材の保管、桜の森公園への平和モニュメント『地・天』の設置、市が長年主催している『平和への祈り展』への参加、など良好な関係を築いてきている」と振り返り、さらに発展させて平和資料館設立の共同作業につなげていきたいとの考えを述べました。

どんな平和資料館にするか会員といっしょに学んでいこうと、今年度から「先進的な平和ミュージアム見学会」を企画。第一回目は東近江市の「滋賀県平和祈念館」を訪ねることにしました。5月27日(土)に実施する予定で、参加呼びかけのチラシを会場で配りました。資料館設立の取り組みと並行して進めていくことを確認したのは、市内の戦争遺跡の文化財指定です。市民に存在を知ってもらうとともに、きちんと保存・活用をはかるためです。まずは鈴鹿海軍工廠正門銘板(鈴鹿市大池町)、鈴鹿海軍航空隊の正門、番兵塔(鈴鹿市白子町)などを候補に挙げています。公有地にあり、指定しやすいのではと考えるからです。市が指定の方針を固めて、文化財審査会に諮ってくれることを願っています。

記念講演は「明和町の歴史的資源を活かしたまちづくり」と題して、明和町文化観光課長の中野敦夫さんにしていただきました。同町は町内の「斎宮」敷地内にある「陸軍第七通信連隊128部隊の防空壕」を昨年、町の指定史跡にしました。県内の市町村で戦争遺跡を文化財に指定したのはこれが初めてです。軍都として誕生し、戦争遺跡の多い鈴鹿市にも大いに参考になると考えてお招きしました。貴重な話を聞かせてもらい、参加者からたくさんの質問が出ました。

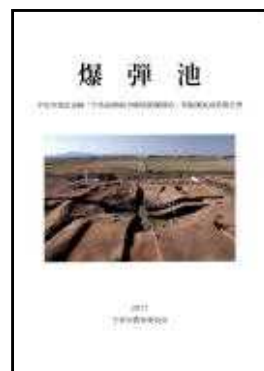


【中野敦夫さんの講演会】

宇佐市教育委員会から発掘調査成果報告書届く

～市指定史跡「宇佐海軍航空隊関係爆弾池」～

大分県宇佐市教育委員会から「市民の会」に、「市指定史跡 宇佐海軍航空隊関係爆弾池発掘調査成果報告書」（2017年3月発行）が送られてきました。宇佐には1939（昭和14）年、「宇佐海軍航空隊」が開隊、市内に掩体壕など多数の戦争遺跡があります。「これらの戦争遺構を平和の大切さと命の尊さを伝える証として残すために『宇佐市平和ミュージアム（仮称）基本構想・基本計画』を策定し、平和ミュージアム推進事業を進めています。今回、遺構整備のための基礎資料収集を目的として」（教育長の序文から）、土砂の流入などで規模等不明となっていた大空襲の爆弾池の発掘調査を実施したということです。鈴鹿海軍航空隊の開隊は1938（昭和13）年10月。宇佐市の取り組みは鈴鹿市にも大いに参考になると思います。



戦後71年・市制74周年記念-戦争遺跡資料展・講演会



毎年、12月1日の市制記念日前後に開催しております、戦争遺跡資料展と講演会を昨年の11月28日（日）～12月3日（土）にかけて鈴鹿市住吉公民館で行い、講演会は最終日の12月3日に実施しました。これまで会場は海軍工廠跡をはじめ旧軍関連施設の跡が残っている身近な公民館等を選んで巡回してきました。住吉公民館はちょうど5番目にあたります。公民館のある住吉地区は広大な敷地を誇る海軍工廠の中心から南東方向のはずれにあり、住吉、道伯町ともに工廠で働く工員さんの住宅がたくさん建ち並んでいました。こうしたことから、講師の浅尾悟さんには「鈴鹿海軍工廠と住吉工員住宅」と題して、お話をさせていただき、終了後には展示品の工員募集ポスター、作業服、機銃製造に使用した工具類等、工廠関係資料の説明をお願いしました。

さて、毎年各公民館にはお世話になっているのですが、当館の道明（どうみょう）館長さんは近くの明生小学校へも授業に行かれるだけあって、この地域の戦中・戦後の暮らしについて大変詳しく、終戦間近に米軍が撮影した工廠を中心とした航空写真から幹線道路、工員住宅、共同浴場など当時の様子を細かく説明いただき、大変参考になりました。

講演会には公民館長さんの御案内により、約40名の方が来てくださいました。なかには学徒動員により海軍工廠で働いたという女性の方もおられ貴重な昔の記憶を語っていただくことができました。この聞き書きは次の項で紹介しています。

なお、当住吉公民館長を長く勤められた故花井圭一さんには、鈴鹿市の旧軍施設の概要をまとめた、市制60周年記念『鈴鹿市のあゆみ』において、執筆並びに資料提供により大変ご尽力いただきました。



【浅尾さんの講演会】

戦時体験聞き取り～鈴鹿海軍工廠編～

鈴鹿市住吉町在住 稲垣よしさん（86歳）

市民の会では鈴鹿市にも戦争があったことを記憶に留め、戦時中の鈴鹿市に関係した方からの聞き取り作業を行っています。今回は当時、女子挺身隊として鈴鹿海軍工廠に勤務されていた稲垣よしさんから貴重な戦争体験を聞くことができました。

稲垣さんはもともと東京荒川区に住んでおられ、田端の女学校に通っていました。しかし東京が度重なる空襲をうけ、父の在所である鈴鹿市に疎開をしようと荷物をまとめていた時でした。1945（昭和20）年3月10日未明、東京は米軍爆撃機B29による未曾有の空襲に見舞われました（東京大空襲）。被害は荒川区を含む東京東部が中心で、一面焼け野原になり、稲垣さん一家も命からがら逃げのびたそうです。

大空襲から1週間後、稲垣さん一家は鈴鹿市奈良新田の実家に疎開してきました。東京の女学校も焼け、14歳になっていた稲垣さんは学校を辞め、家の近くの鈴鹿海軍工廠に面接を受けて採用となり、女子挺身隊として働くことになりました。採用となって、まず1週間は工廠の北にあった「工員養成所」で見習い工員としての訓練を受け、訓練期間中は養成所内の宿舎に寝泊まりしました。訓練といっても工廠内の見学と体力づくりが中心で、工員は県内の他、奈良県や和歌山県など近畿地方各地から集まっていた。

養成機関が過ぎると、稲垣さんは家から通うようになり、火工部の工員として火管圧填工場に配属されました。鈴鹿海軍工廠は戦闘機に搭載する機銃とその弾薬を製造する軍需工場で、稲垣さんの仕事は木箱に火薬を並べ、それを雷管に詰める作業でした。火工部の工員はほとんど女子で、男性の班長からの指示で動いていました。勤務時間は朝8時から夕方5時で、昼45分ほどの昼食時間と午前、午後15分ほどの休憩時間がありました。また本来の仕事とは別に班長の命令で工場の近くに畑を作り、そこにカボチャやキュウリなどの野菜を作っていたそうです。工員は与えられた作業だけを行い、他の部署が何を作っているのかはわかりませんでした。他県からやってきた工員は工廠の周辺の工員住宅に入居しました。工員でも一等工員など上級工員は大池住宅などの1戸建て住宅に住み、下級工員は住吉住宅など4軒長屋の住宅に住んでいました。7月24日10時35分、工廠近くに数十発の爆弾が投下されましたが（算所空襲）、稲垣さんは大きな音は聞きましたが、直接、被害者や被害状況などは見なかったというのでした。

1945（昭和20）年8月15日昼、職員・工員全員が工廠本部近くの広場に集合させられ、ラジオからいわゆる天皇の玉音放送を聞きました。放送は雑音が多く、よく聞き取れませんでした。仲間から「戦争が終わった」と聞かされ「これでやっと平和になる」と思ったそうです。軍需品を作る必要もなくなり、一般工員はその日の午後から家に帰宅しました。職員らは

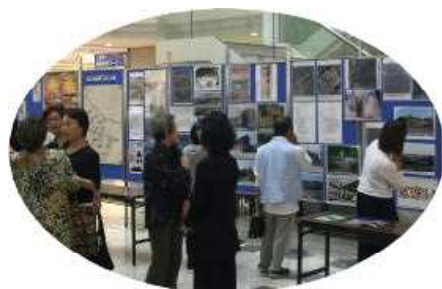
整理におわれ、工場の部品などを無断で持って帰る人もいました。戦後、工員住宅にいた人たちは自分の故郷に帰っていった人もいましたが、住宅にそのまま住みついた人も多くいました。戦時中、勤労動員用に使っていた各宿舎は戦後、一般引き揚げ者用の住宅として使用されましたが、特に道伯宿舎は戦後「厚生寮（棟）」と呼ばれ、沖縄県出身者の引き揚げ者用に使用されました。引き揚げ者と地元の住民との間に若干のトラブルもあったようです。



【鈴鹿海軍工廠火管圧填工場跡】

鈴鹿ハンター「風の街の文化祭」で展示会

鈴鹿ハンターで昨年の10月23日(日)に開かれた恒例の「風の街の文化祭」に参加して、「戦争遺跡が語る鈴鹿の歴史」をテーマにした写真・パネル展示をしました。休日の買い物客で賑わうショッピングセンターでの展示は、図書館や公民館等に足を運ぶ見学者とは異なり、買い物のついでに立ち寄った客が、写真・パネル展示を見て改めて戦争遺跡の存在に深い関心をよせ、熱心に見学し質問をされる方もみえ、市民の方へのきめ細かな周知活動の一環として意義のある展示会であったと思います。



戦争遺跡見学会のご案内

市民の会では平和資料館の建設をめざしていますが、今回の見学会は先進的な平和ミュージアムを知ってもらう目的で滋賀県の資料館等の見学を計画しました。



- ・日時 **5月27日(土) 9時～16時30分**
- ・見学地 ①**滋賀県平和祈念館**(東近江市) 2012年開館、展示方法の工夫などをご覧ください
②**陸軍コンクリート掩体**(東近江市) 2基残存、鈴鹿の掩体と比較してみてください
③**岩脇(いおぎ)山列車壕**(米原市) 蒸気機関車を隠すための施設、地元民が整備
- ・集合 鈴鹿フラワーパーク第3駐車場(8時50分までに集合)
- ・移動方法、募集人員 マイクロバス 20名(先着順)
- ・参加費 **3000円**
- ・その他 昼食費は含みません(途中、道の駅等で各自とってください。弁当でもOK)
- ・申込方法 ファックス(059-386-1725)かメール(r-dolce@mecha.ne.jp)で
- ・申込締切 **5月20日(土)**

2017平和への祈り展

- ・日時 **6月30日(金)～7月2日(日) 10時～20時(最終日は19時)**
- ・場所 **イオンモール鈴鹿(ベルシティー)2階イオンホール**(鈴鹿市羽山4-1-2)
- ・講演会 7月1日(土) 11時～11時40分、14時～14時40分
講師 三重県原爆被災者の会 阿部磨智恵さん「原爆のはなしを聞こう」
- ・展示品 鈴鹿市の戦争遺跡パネル展示、戦時中の生活用品(代用品、空襲関係、衣料切符、通達類、教科書等)、軍関係品(鈴鹿海軍工廠、鈴鹿海軍航空隊関係品)、等
- ・主催 鈴鹿市、鈴鹿市教育委員会
- ・協力 「2017平和への祈り展」市民実行委員会

【発行】 鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会

代表 竹内宏行、中森成行

〒510-0254 鈴鹿市寺家1-2-47

電話 059-388-6508

メール ta818hi@mecha.ne.jp

HP <http://www006.upp.so-net.ne.jp/asao/peacesuzuka.htm>